

## テニス雑感

原田義則 (3組)

下手ながらテニスは観るのもプレーするのも大好きです。このHPでも何回かリポートしていますが、テニスの4大グランドスラム大会(GS=全豪 OP(メルボルン開催)+全仏 OP(パリ開催) +全英 OP(ウィンブルドン開催)+全米 OP(ニューヨーク開催))は計7回観戦に行っています。この2年半は出掛けられないので専らテレビ観戦ですが、時間差の少ない全豪は良いものの、時間差の大きな他の大会が開催されている期間は睡眠不足の日が連続します。

日本のテニス界には最近嬉しいニュースが続いています。今年の全仏オープンテニストーナメント(全仏 OP)の男女混合ダブルス部門で柴原瑛菜(えな)選手がオランダ人プレーヤーと組んで優勝しました (<https://www.yomiuri.co.jp/sports/etc/20220602-OYT1T50205/>)。混合ダブルスは4大GSやオリンピックなどの男女同時開催の大きな大会でしか実施されないのですが、杉山愛選手が1999年に全米で優勝して以来です。

GSの男子シングルスは、1877年のウィンブルドン選手権(全英 OP)以来行われていますが、2014年に錦織圭選手が全米 OP で準優勝したのが日本人の最高成績で優勝者はいません。女子シングルスの方は、1884年にウィンブルドン(全英 OP)が始まり、大坂なおみ選手(日本人の母とハイチ系アメリカ人の両親の下、大阪で誕生。22歳の時に日本国籍を選択して東京オリンピックに出場)が2018年と2020年の全米 OP、および2019年と2021年の全豪 OPで優勝しています。

男子ダブルスに関しては日本人優勝者はいません。一方、女子ダブルスに関しては1975年の全英 OPでの沢松和子選手や杉山愛選手による2000年、2003年の3回の優勝があります。以前は青山修子選手と組み、最近ではアメリカ人選手と組んでいる柴原瑛菜選手も、良い所までは行くのですが、残念ながら優勝に手は届いていません。

と言う訳で、最近では柴原選手の優勝と大坂なおみ以外、パツとしない日本人選手の活躍ですが、車いすテニス部門では国枝慎吾選手と言う現役のレジェンドがいます。先日の全英 OPではシングルス(初めて)とダブルスの両方で優勝し、通算28回のシングルス優勝(全豪11、全仏8、全英1、全米8)と22回のダブルス優勝(全豪8、全仏8、全英4、全米2)に加えて昨年の東京パラリンピックでの優勝と合わせて今回、栄えある「生涯ゴールデンGS」を達成しました。正に生きる伝説です。国枝慎吾選手は日々の鍛錬に加えて、極めて知的なプレーをします。是非、見習いたいのですが、気持ちと体が全くついて行かない今日この頃です。

以上

2022年7月16日 記